



12月図書館企画

クリスマス特集「世界の名作」

世界で読み継がれている名作を紹介します。長年読み継がれているからこそ、一度読んだことのある人はもう一度、読んだことのない人はぜひ読んでみましょう。中には100年以上読み継がれている本もあります。



『クリスマスキャロル』 チャールズ・ディケンズ著

※1843年初版発行 イギリス

クリスマスという特別な時間に、一人の老人が体験する不思議なお話。

『賢者のおくりもの』 オー・ヘンリー著

※1906年初版発行 アメリカ

妻へのクリスマスプレゼントを買うために、大切な時計を売った男でしたが？

『飛ぶ教室』 エーリッヒ・ケストナー著

※1933年初版発行 ドイツ

クリスマス劇の稽古に励んでいたマルティンに届いた、母からの手紙をきっかけに始まる、心温まる優しいお話。

『34丁目の奇跡』 ヴァレンティン・ディケンズ著

※2002年初版発行 アメリカ

クリスマスという奇跡に満ち溢れた時間の中で、いろいろな軌跡を体験することによってサンタクロースの存在を信じるようになっていくという、心温まるお話。

※ぜひ、図書館へ



10代にオススメクリスマスに読みたい本

『サンタのおばさん』 東野圭吾著

サンタクロースってどうしておじいさんばかりなのでしょう。男女同権の時代、おばさんのサンタクロースがいたっていいじゃない。

『Xmas Stories』 朝井リョウ著

奇跡の夜クリスマスに何かが起こる。

『輝く夜』 百田尚樹著

クリスマスの夜に女性たちに起こった奇跡の物語。



アンチクリスマスの1冊

『太陽の塔』 森見登美彦著

クリスマス、それは恋人たちが会いを語らう一日。と、日本ではいつの間にかクリスマスは恋人たちの一日ということになってしまいましたが、そんな恋人たちの聖夜を前に、嫉妬に胸を焦がす人たちもいるのです。そうクリスマス中止を願う非リア充の皆さんへ。。。。。



『ギフテッドの光と影』 阿部朋美・伊藤和行著

没頭しやすい、情報処理が速い、関係づくりが苦手。。。

高IQが「生きづらい」のはなぜ？

特異な才能の一方で、繊細さや強いこだわりを併せ持つ彼ら。

時代、社会、環境に翻弄されたきた実情に迫るノンフィクション！

『現代用語の基礎知識 2024』

おかげさまで創刊76周年

「2023年の言葉と世相を記録」する年鑑雑誌
考える、ための現代用語

『ギネス世界記録 2024』

世界記録を集めた年鑑本。

今年は歴史を学び、地球の魅力を見つけてみよう。



長い夜に読むオススメの新刊！



『香港警察東京分室』 月村了衛著

テロリストを追え！圧巻の国際警察小説。アクションあり、頭脳戦あり、個性豊かなキャラクターが躍動する、警察群像エンタテイメント。



『ストロベリームーン』 芥川なお著

好きな人と一緒に見ると永遠に結ばれる神話がある赤い満月ストロベリームーンを見に行く。そんな幸せな時間を過ごしていたが日向は萌の余命が少ないことを知る。2人を待ち受ける運命は如何に？男子高校生の友情あり、日向と萌の純愛に涙が止まらない大号泣必至の1冊。



『滅茶苦茶』 染井為人著

最悪だ。もう逃げ場がない。三人三色の人生が転落しながら絡み合う、絶叫的ミステリー。刹那な現代をサバイブしながらも、孤独を胸底に抱える者たちの欲望に駆られた出会いは、彼らをまっさかさまに谷底に突き落とす。



『ヨモツイクサ』 知念実希人著

究極の遺伝子を持ち、生命を喰い尽くすその名はヨモツイクサ。北海道旭川に黄泉の森と呼ばれ、アイヌの人々が怖れてきた禁域があった。その禁域を大手ホテル会社が開発しようとするのだが、作業員が行方不明になってしまう。地元の病院に勤める外科医・佐原茜の実家は黄泉の森のそばにあり、7年前に家族が忽然と消える神隠し事件に遭っていて、今も家族を捜していた。この2つの事件は繋がっているのか？もしかした、ヨモツイクサの仕業なのか？



『愛されてんだと自覚した瞬間』 河野裕著

千年の愛は、一途でかろやか。千年ぶんの愛も、今この一瞬のときめきも。最高にポップなモダンファンタジー。人と神とが駆け回り、時を超えた愛と欲とが入り乱れる只中で、悠々と我が道を行く最強コンビの物語！

『空想の海』 深緑野分著

読む楽しさが、ぎゅっと詰まったカラフルな11の物語。



『墨のゆらめき』 三浦しをん著

ホテル勤務の続^{つづき}力は招待状の宛名書きを新たに引き受けた書家の薫を訪ねたところ、副業の手紙の代筆を手伝うはめに。代筆は依頼者に代わって手紙の文面を考え、依頼者の筆跡を模写するものだった。

『鈍色幻視行』 恩田陸著

謎と秘密を乗せて、今、長い航海が始まる。

『極楽征夷大將軍』 垣根涼介著

史上最も無能な征夷大將軍。やる気なし、使命感なし、執着なし、なぜこんな人間が天下を獲れたのか？

『息』 小池水音著

弟が若くして死を選んだあと、姉、父と母は、どう生きたか。喪失を抱えた家族の再生を、息を繋ぐようにして描きだす。

『エレクトリック』 千葉雅也著

父の指示で黎明期^{れいめい}のインターネットに初めて接続した達也は、ゲイのコミュニティを知り、おすおすと接触を試みる。轟く雷、アンプを流れる電流、身体から世界、宇宙へとつながってゆくエレクトリック。

『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光著

作家の宮内彰吾が死去した。宮内は妻帯者ながら多くの女性と交際し、そのうちの一人と子供までつくっていた。それが僕だ。

「親父が「世界でいちばん透きとおった物語」という小説を死ぬ間際に書いていたらしい。何か知らないか」宮内の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。編集者の霧子さんの助言をもとに調べるのだが？予測不能の結末が待つ、衝撃の物語。

『子ども嫌いな私のアパートに、座敷童が住んでいました。』

鈴森丹子著

子供が大の苦手女子×座敷童子つき物件！ハウスメーカー勤務の東湖濤・通称とっこは子供が苦手。新たな物件に入居した日の晩、そこには見知らぬ子供の姿が？「ぼくは、ざしきわらしぜよ」やむなく座敷童子のたっくんと同居生活を始めたとっこ。解け始めた頃、たっくんの悲しき真実を知ること。

